

## 研 修 等 報 告 書

令和 4年 7月 29日

笠岡市議会議長 殿

議員 真鍋 陽子



下記のとおり研修等を実施したのでその結果を報告します。

### 記

【1】

住 所	岡山県総社市中央1丁目1番1号 0866-92-8271
案 件	総社市における有機農業の取り組みについて
期 日	令和 4年 7月 25日 (月) 10時から11時30分まで
主 催 者	真鍋陽子
講 師	産業部農林課 農林係長 吉田 真菜美
訪問施設	総社市総合福祉センター 会議室
	<p>笠岡市において学校給食に有機農産物を使う取り組みが実験的に行われている。昨年12月10日には、「有機栽培について知ろう」というねらいの元、総社市産有機栽培にんじんが笠岡市内全域で提供された（メニュー：親子煮）。令和4年3月議会において今年度の取り組みについて質問したところ「供給量確保の問題」「認定こども園、保育所においても、今後情報収集をしていく」「自校調理をしている島しょ部の給食で使用可能か検討していく」などの回答があった。これをふまえた上、さらなる研究をするため、総社市における有機農業の取り組み状況、今後の展開、学校給食における使用状況などお聞きした。</p> <p>現状、総社市では、活発に有機農業に取り組んでいる団体があり、にんじんを中心に様々な農産物に取り組んでいる。令和3年度、学校給食に利用されたにんじんの内、有機栽培されたものは22%。ほうれん草は62%。有機農業の生産者は、販路がなければ取り組みにくい。また、慣行農業とお互いに理解しあうことも必須課題である。県内では赤磐市、早島町が先進事例とのこと。有機農業について、今後さらなる研究を重ねていく。また笠岡市内はもちろん、井笠地域における助け合いネットワークづくりも意識しながら取り組んでいきたい。</p> <p>名刺 メモ</p>

【2】

住 所	岡山県総社市三須825-1 0866-90-0550
案 件	岡山県女性市議会議員の会 総会・講演会 障がい者1500人雇用 引きこもり支援事業
期 日	令和 4年 7月 25日(月) 13時 から 15時30分まで
主 催 者	岡山県市議会議員女性の会
訪問施設	国民宿舎サンロード吉備路コンベンションホール
講 師	片岡 聡一 総社市長
概 要	<p>年に一度行われる岡山県女性市議会議員の会が、今年は総社市内において開催された。岡山県内で活発に活動されている女性議員が一同に集まる、コロナ禍では大変貴重な会。真鍋の出席は3回目。ヘルプマーク・ヘルプカード認知普及活動の際にご協力くださった皆様や、議員活動の中で様々に連携してきた方々とお会いできる貴重な会でもある。</p> <p>今回は総社市長片岡聡一氏から「障がい者1500人雇用～岡山県総社市の挑戦～」 「ひきこもり支援について」の講演があった。</p> <p>「一人で生きていけない人のための世話をすることに全力を尽くす」と言い切る片岡市長。総社市に住んでいるすべての人に居場所があるように政策を打つこと、障がいのある方々が働ける場所を確保するために、市として全力を尽くすこと、そもそも人類、生物界では、必ず4%の確率で生きる事への困難さを伴う生命が発生する中で、たまたまその4%の側にいる方々は役割を引き受けてくださった方。その方々の支援をすることは、96%側にいる者として当然であること、などなど政治家としての理念、志が素晴らしいと感じた。</p> <p>市の職員に「無理」と言われた障がい者1000人雇用が600人を越えたころから、リーマンショック以降減少が続いていた人口が転入超過になったとのこと。障がいのある方に重点をおいた取り組みが、実は全ての人が住みやすいまちづくりに繋がることは理念としては広がっているが、総社市は市全体で取り組んだ実感の中でデータを積んだ希少な先進事例。障がい者1500人雇用を目指す中で浮かび上がってきた「ひきこもり支援」</p> <p>総社市内における「働いていない」障がいのある方を調査する中で明らかになってきた「引きこもり」の問題を、いかに解決していくかに早期から取り組んでいる。総社市では平成27年8月からひきこもり支援等検討委員会を設置し、実態を把握、ひきこもり支援センター「ワンタッチ」を開設、その後居場所として「ほっとタッチ」も開設している。</p> <p>引きこもりをしている方々は、苦しんでいる。できれば社会に出たいと望んでいる。自分ですのために調べてもいる、とのこと。自治体としてまず必要なことは、情報をしっかり準備すること。引きこもりをしている方々が情報にアクセスできること、とのこと。令和2年9月議会個人質問から言及させていただいている「引きこもり」問題。そのまま取り上げなければより深刻な社会課題になることは明らかであり、笠岡市としてもさらなる取り組みを進めていただくよう、はたらきかけていきたい。講演では、引きこもりに関してのキーパーソンは「中学校担任の先生」とのことだった。不登校が引きこもりに繋がらないよう、学校、そして地域において連携できることは何かを今後模索、研究し、提案していきたい。</p>
添付書類	研修等資料 名刺